

## 指定管理者評価シート

事業名	さけ科学館管理費	所管課(電話番号)	建設局みどりの推進部みどりの管理課 (211-2536)
-----	----------	-----------	---------------------------------

### I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市豊平川さけ科学館 ①本館 ②学習棟 ③実習棟	所在地	南区真駒内公園2-1
開設時期	①昭和59年10月2日 ②昭和61年11月11日 ③平成15年3月31日	延床面積	①579.2m <sup>2</sup> ②121.5m <sup>2</sup> ③220.61m <sup>2</sup>
目的	豊平川におけるさけの回帰事業を通して生物や自然環境の保全に関する知識の普及啓発を行い、自然の豊かな都市環境の形成に寄与する。		
事業概要	さけのふ化並びに成長過程を観察する場の提供、さけの生態並びにさけの生息できる自然環境の保全に関する資料の展示、さけに関する学習の指導及び豊平川におけるさけの回帰に関する事業		
主要施設	本館、学習棟、実習棟		
2 指定管理者			
名称	公益財団法人札幌市公園緑化協会		
指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日		
募集方法	公募 非公募の場合、その理由:		
指定単位	施設数:1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	さけのふ化及び成長過程を観察する場の提供に関する業務、豊平川におけるさけの回帰に関する業務、さけの生態並びにさけの生息できる自然環境の保全に関する資料の展示とさけに関する学習の指導に係る業務及び環境教育に資するイベントの計画実施業務		
3 評価単位	施設数:1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

## II 令和2年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価				
1 業務の要求水準達成度							
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>当団体の運営方針である、公平・公開・効率・協働・環境の「公益性5つのK」を基に、以下の①～⑤に示す「管理運営の基本方針」を策定した。</p> <p>① 平等・公平な利用の機会を確保し、さけ科学館の公共福祉増進の場としての利用効果を高める。</p> <p>② 関係法令・条例等を遵守し、さけ科学館の利用者や市民の声の反映に努め、開かれた管理運営による安全で安心、快適な利用環境を提供する。</p> <p>③ さけ科学館の資源・施設の長寿命化を念頭に置き、効率的な管理運営による経費削減を図り、安定した質の高いサービスを提供する。</p> <p>④ さけ科学館を環境教育のコミュニティ活動の拠点と位置付け、市民や団体、関係諸機関との連携・協働を推進し、集いの場としての魅力を高める。</p> <p>⑤ 札幌の水辺環境のシンボルであるサケを守り育てる活動を通じて、水辺環境の保全とともに、市民の環境を大切に思う心をはぐくむ。</p>	<p>お客様の意見・要望等や、実習・解説案内・博物館実習・インターンシップや職場体験等の依頼は、可能な限り受け入れに努め、平等・公平性については適正に確保することができた。管理運営においては、関係法令等を厳守し、適切な利用環境を提供することができた。</p> <p>さかなウォッチングやサーモンウォッチング等のイベントの際は、札幌を取り巻く水辺の現状の普及啓発を積極的に行なった。河川でのサケや淡水魚類調査の際にも積極的に市民に声を掛けて解説するなど、様々な場面での取組みを進めた。</p>	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>A</td><td>B</td><td>C</td><td>D</td></tr> </table> <p>基本方針のもと適切な管理運営に努めています。特に、さけ科学館の設置目的に沿った環境教育や普及啓発などを積極的に行なっていることを評価します。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

#### ▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

年齢や障がいの程度、性別、主義・主張、思想・信条、民族や言語、社会的地位や身分の違い等によって、さけ科学館の平等利用が妨げられないよう、また、利用者に不公平感を抱かせることのないよう、徹底したスタッフ教育による管理運営を行った。

- ・障がい者の利用機会の確保に努めた。
- ・子育て層が快適にさけ科学館を利用できるよう、授乳希望者への案内・対応を実施した。開館中やイベントの際はさかな館の部屋を授乳室として利用いただくよう調整した。
- ・苦情・要望・提案等の申し立てによって差別が生じないよう、スタッフ教育の徹底に努めた。
- ・施設利用に関する情報収集を常に行ってスタッフ間で共有し、館内掲示板やホームページにより、必要な情報をリアルタイムで発信した。
- ・さけ科学館で実施するイベントやプログラムの情報、河川のサケ観察情報、施設利用情報など、利用者のニーズに的確に応える情報提供を行った。
- ・団体利用の連絡情報に基づいて管理作業のスケジュールを調整するとともに、利用者が過度に集中しないよう、利用日時の調整を図った。
- ・さけ科学館の管理者側の一時的な事情により、利用者が展示物の見学や体験等の機会を逃すことのないよう、きめ細かい情報発信を行った。
- ・参加者が限られる実習等については、不公平感の排除に努め、人気の実習については、公正な抽選により参加者を決めた。
- ・イベントの際は、3密による新型コロナウイルス感染拡大防止のため、人数制限を行いつつ、全員が参加できるように行った。

研修・指導による全スタッフの教育により、平等・公平な利用機会を適正に確保した。また、館内利用やイベント開催時、苦情発生時等の対応については、差別や特別扱いとならないよう注意をし、適切な対応を心掛けた。  
広報さっぽろ・HP・SNS・イベントチラシや館内掲示等により、施設・イベント等の最新情報を広範囲に提供するよう努めた。  
外国人向けの表記については、利用の動向を見ながら、必要性の高い表示を追加するなどにより対応している。また、対話の際は、スマートフォン翻訳アプリ等を活用したほか、病気等の緊急時に備えて、多言語救急問診シートを常備している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの参加者人数が集まることが予想されるイベントについてはでは、事前に整理券を配布するなどし、密集を避け全員が参加できるように配慮した。

平等利用に向け、スタッフへの教育や積極的な情報発信などについて適切に取り組んでいます。さらに、コロナ禍におけるイベント開催に関しても、感染対策を行いつつ柔軟に対応していることを評価します。

#### ▽ 地球温暖化防止対策及び環境配慮の推進

- ・HES(北海道環境マネジメントシステムスタンダード)の認証を受け、目的・目標を設定して環境活動に取り組んだ。
- ・光熱水の使用及びごみの排出について、それぞれ削減に努めた結果、前年度比で、LPガスは132.0%、水道は74.8%、一般ごみ排出量は61.8%、電気使用量は110.5%、となつた。
- ・「生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク」の拠点施設として参加しており、今後も身近な水辺の生き物を通じて札幌の生物多様性保全への関心が高まるよう、取組みを進めた。

一般ごみ排出量及び水道の使用量は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い入館者数が減少したため、排出量・使用量が減少した。LPガスは前年度使用量が増加した。魚病予防のため致し方ないが、お湯を使用した飼育用具の消毒を徹底して行ったため、使用量が増加してしまった。電気使用量は、H29年に破損し稼働停止中だった濾過槽の改修が終了し、常時稼働したため、使用量が増加した。

今後もスタッフ全員で改善・削減への取組みに努めていきたい。生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークの連携事業「いきものつながりオンラインクイズラリー2020」に参加し、生物多様性の重要性について普及啓発をすることができた。

適正な施設運営や飼育魚の管理を行うことによるガス使用量等の増加はやむを得ないものと考えますが、改善できる部分はないか振り返りを実施するなど、今後もさらなる環境配慮への取り組みが行われることを期待します。

- ・EMSの環境目標のひとつであるノ一残業デーの超過勤務時間について、前年度実績を上回らないことを目標として取り組んだ。野外調査業務においては、河川状況等を見ながらスケジュールを設定する必要があるため、業務に支障が出ない範囲内で取り組むように努力した。
- ・環境に関する自覚教育を2回実施した。

全スタッフで「水曜日はノ一残業デー」という意識を持ち、業務の効率化を図り、エネルギー使用量削減に繋がることを意識して、対応可能な範囲で今後も取り組んでいく。

#### ▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)

- ・統括責任者、統括責任者代理を配置した。
- ・年度当初に業務分担、指揮命令系統、連絡系統等を確認した。
- ・当初の研修計画に基づき、研修を実施した。その他飼育技術等に関する外部の研修会・会議に参加し、さけ科学館に必要な知識・スキルの取得に努めた。

管理運営体制を整え、問題なく適正に業務を遂行できた。研修等は予定通り実施し、来館者への対応や電話問合せ、飼育管理に役立てることができた。

職員研修や専門知識等の習得により、市民サービスや飼育技術の向上に努めていることを評価します。今後も、研修を形骸化させることのないよう、実施内容について工夫してください。

#### ▽ 管理水準の維持向上に向けた取組

- ・来館者の快適性の向上、及びスタッフを含めた安全性の確保のため、危険予測(KY)・ヒヤリハット収集票を作成し、スタッフ全員で情報を共有し、作業手順の改善に役立て、事故防止に努めた。
- ・草刈り機・除雪機等の作業機械を使用する際は、研修以外にもスタッフ全員に対して口頭により指導を実施するなど、安全確保の取組みを適切に実施した。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当協会全体で実施される安全大会は中止となつたが、メールにて配布された安全大会資料をもとに、現場にて安全大会を実施した。
- ・4月30日に、サケ稚魚放流のため業務車両にて移動中、豊平川河川敷右岸藻岩橋付近の手すりに車両を接触させる事故が発生した。当協会及び全スタッフで原因と対策を話し合い、早急に再発防止対応を実施した。
- ・3月30日に、サケ稚魚調査のため車両にて移動中、厚別通において追突事故が発生した。当協会及び全スタッフで原因と対策を話し合い、早急に再発防止対応を実施した。

さけ科学館来館者の事故は発生しなかつた。

他公園を含めた業務災害の発生に対しては、当団体全体で共有し、迅速かつ適切に再発防止措置を講じることができた。

昨年度に引き続き車両事故が発生した。事故対応記録簿を作成しスタッフ間で原因と対策についてミーティングを行った。また朝礼で業務で車両を使用する日及び交通安全週間をはじめ定期的に車両の運転について(通勤時も含む)注意喚起を行った。

今後も全スタッフで安全の確保に努め、利用者の被災、及び業務災害・事故を発生させないよう、気を引き締めて業務に当たる。

来館者への安全確保の取り組みについては適切に実施されていると評価します。事故については、発生後早急に再発防止対応を実施したこと、朝礼や交通安全週間などに注意喚起の機会を設けていたにもかかわらず、年度内に2度、車両事故が起きたことを重く受け止め、来年度以降は事故ゼロを目指して安全への取り組みを徹底してください。

#### ▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)

定期清掃、日常清掃、機械警備、電気設備点検、消防設備点検、塵芥処理、産業廃棄物処理、受水槽清掃、自動ドア保守点検、温風暖房機保守点検、建築物法定点検、危険木処理、駐車場・園路除雪の業務については第三者に委託し、仕様書の通り適切に実施した。

施設・設備等の委託業務は、仕様書の通り適切に実施した。

協定書の通り適切な業務委託が行われていることを評価します。

#### ▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(市民との協働、地域等の連携、運営協議会等の開催)

- ・さけ科学館ボランティアの会(登録者数12名)では、イベント・飼育補助、施設管理補助等の活動を行った。
- ・民間の活動団体である「真駒内川水辺の楽校」「自然ウォッキングセンター」等の活動に積極的に協力した。※今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントがほぼ中止となつたが、例年お互いに協力して実施している。
- ・市民や行政・大学の研究者・さけ科学館等の有志による「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」の活動として、豊平川の野生サケを優先的に保全し、サケやその他魚類の生息環境の改善等を検討し、サケ遡上数が大きく減らないよう放流数をコントロールする「順応的管理」を導入し、豊平川に回帰するサケ親魚のモニタリング調査、サケ稚魚降下調査等を共同で実施した。
- ・近年、道内で分布を広げている国内移入種のアズマヒキガエルは、令和元年には札幌市南区内での大量発生、繁殖が確認され、在来の両生類など地域の生態系に与える影響が懸念されており、早急な対応が求められることから、市民への外来種問題認知の促進活動に加え、市民団体「かんガエル」・市環境共生担当課への情報提供、調査や防除などの面で協力した。

ボランティア活動を積極的にサポートし、サケとふれあうミニイベントや・水辺の生き物観察会等において活躍していただいた。市民フォーラムは、札幌ワイルドサーモンプロジェクトと共に新型コロナウイルス感染症対策としてZoomによるオンラインで開催した。

地域の団体等からの協力依頼や連携行事に対しては、今後も可能な限り協力するよう努める。

要求水準通りボランティアや関係機関との協働を行っていることに加え、多様な団体との連携や情報提供などを積極かつ柔軟に行っていけることを評価します。

開催回	協議・報告内容	
運営協議会 3月12日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理業務の実施状況について</li> <li>・管理運営上の問題点、改善点について</li> <li>・利用者の声について</li> <li>・自主事業の実施状況について</li> <li>・今後のイベントについて</li> <li>・本館展示物の更新について</li> <li>・展示水槽の設置について</li> <li>・さけ科学館の役割と利活用について等</li> </ul>	<p>運営協議会だけでなく、日頃から所管部署と連絡を密に取るようにした。</p> <p>北海道開発局、市環境共生担当課・市河川事業課や水産研究・教育機構水産資源研究所、札幌ワイルドサーモンプロジェクト等とも河川状況やサケ・水生生物の分布状況等の情報共有に努めた。</p>
<b>&lt;協議会メンバー&gt;</b>		
札幌市みどりの管理課 係長・担当職員 札幌市公園緑化協会事務部長・さけ科学館主任(マネージャー)・主任(サブマネージャー)		
<p>▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)</p> <p>▼ 資金管理については、指定管理業務や自主事業等、指定管理施設ごとに区分しており、現金等の取扱いについては点検、調査を行っている。事務局経理事務担当者による現金出納簿の確認、月末締めの現金出納簿と売上金口座入金状況の確認を隨時行っている。</p> <p>▼ 団体の規定に基づき、現金や金券類、預金通帳等の施錠管理や帳簿類の内部監査を年2回実施しているほか、公認会計士2名による外部監査を導入している。</p> <p>▼ 現金等の取扱いに関しては、現金取扱規定を整備しており、管理体制の強化及び不祥事防止の取組みを行っている。</p>		
<p>札幌市の検査・監査には適切に対応した。また、改善が必要な事項等については、各公園・施設のマネージャーを通じ、公園・施設の担当者へ周知徹底を図った。</p> <p>不正行為や事故発生の未然防止のため、複数名による現金等の確認を徹底した。</p> <p>不正経理等の事故は発生していない。</p>		
<p>▽ 要望・苦情対応</p> <p>さけ科学館の施設やサービス、維持管理についての苦情等の情報については、苦情等対応報告票に記録して組織で共有する手順を整えている。</p> <p>令和2年度の苦情は1件であった。</p> <p>・9/22に、「やまめ釣りに年齢制限があるならきちんとホームページに記載してください。それが目的で行ったのに無駄に駐車料金を支払いました。」とメールフォームから投稿があった。ホームページには、ヤマメ釣り体験が小中学生対象であることも書かれていたが、チラシは金額のみ記載だった。次回からは、チラシにも対象者を明記することとする。</p>		
<p>利用者から直接、感謝やおほめの言葉をいただくことが多く、スタッフやボランティアの励みになった。苦情等に関しては真摯に受け止めて、誠心誠意対応することができた。</p> <p>要望・意見・苦情等に関しては、改善の機会ととらえ、今後も計画した手順に従い、適切に対応する。</p>		
<p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>▼ アンケートは、来館者及びイベント等の参加者を対象に実施し、分析結果を札幌市へ報告するとともに、職員間で供覧して共有し、改善点等を次回の事業や管理運営に反映させた。</p> <p>▼ 施設の管理運営についての自己チェック・評価を実施した。</p>		
<p>イベントアンケートでは満足度で高い評価が得られた。自由記述の意見・要望についても改善の材料とした。</p> <p>指定管理の計画・提案内容の履行状況を定期的にチェックすることで、目標に向けた管理運営を適正に遂行できた。</p>		

		A	B	C	D
8	(2)労働関係 法令遵守、雇用環境維持向上	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <p>▼ スタッフの雇用に関して、労働基準法、最低賃金法、労働安全衛生法、労働者災害補償保険法、健康保険法・厚生年金保険法、雇用保険法、労働契約法、男女雇用機会均等法、次世代育成支援対策推進法、女性活躍推進法、育児休業・介護休業等に関する法律、労働保険の保険料の徴収等に関する法律、その他関連する法令等に基づき、主として以下のような届出・対応等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全てのスタッフに対し、北海道最低賃金861円(令和元年10月3日発効、令和2年度据え置き)以上の時給を支給した。</li> <li>・施設で働く職員に対し、時間外労働・休日労働及び深夜残業をさせた場合、それぞれ法定割合以上の割増賃金を支払った。</li> <li>・就業規則・要綱の改正を行い、札幌中央労働基準監督署に適切に届け出ている。</li> <li>・全スタッフの就業時間や休日等について、労働基準法を遵守した。</li> <li>・スタッフに時間外労働又は休日労働をさせるにあたり、書面による労使協定(36協定)により必要な定めをし、札幌中央労働基準監督署に届け出た。</li> <li>・全てのスタッフを労災保険適用とし、条件を満たすスタッフを雇用保険に加入させた。</li> <li>・労働保険料等算定基礎賃金等の報告を北海道労働局へ提出し、労働保険料を納付した。</li> <li>・スタッフの勤務形態、家族状況等に応じて健康保険・年金保険資格を取得するよう、適切に届け出を行った。</li> <li>・年1回の定期健康診断及びストレスチェックを実施した。</li> <li>・短時間雇用管理者を選任し、北海道労働局へ届け出た。</li> <li>・有期雇用契約者のうち、無期転換申込権が発生した者に対して周知し、希望の申し込みを隨時受け付けた。</li> <li>・次世代法及び女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画を策定し、届出・公開・周知した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止を目的に、事務所内の触れる場所の消毒やマスク着用、消毒薬の設置、休憩時や作業時に密を避けるなどをスタッフに周知した。</li> </ul> <p>▼ 安全衛生委員会を設置し、毎月1回、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、各公園の担当課長がリモートワーク等により出席して委員会を開催し、職場の安全確保及び健康障害の防止に係る議題について検討し、その結果を各公園・施設のマネージャーを通してスタッフに周知して、健全な職場環境の実現に努めた。</p> <p>▼維持管理作業従事者を対象に、作業における安全確保や機械の取扱いに関する講習を実施した。</p> <p>▼ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、育児休業等の取得奨励、職場内コミュニケーションの活性化、有給休暇取得の奨励、ノー残業デーの設定などの取組みを行った。</p> <p>▼公的資格の取得支援、接遇や安全・技術等に関する内部研修の実施、優秀なスタッフや高年齢者の継続雇用など、雇用環境の整備により、市民サービスの向上等に結びつく取組みを行った。</p> <p>▼第三者への委託業務について、受託者に当該業務従事者の労働環境に関わる情報提供を求めた。</p> <p>▼女性活躍推進法に基づく認定制度「えるぼし」において、女性の活躍推進に関する状況等が優良な団体として「認定段階3」を受けている。</p>	さけ科学館と本部事務局との連絡調整を密にするとともに関係機関への必要な届出を迅速かつ確実に行うなど、労働関係法令を遵守し、すべての関係手続きについて適切に対応できた。 当協会での労働災害発生ゼロを目指して、毎朝のKY活動、ヒヤリハット事例の共有、安全大会の開催(新型コロナウイルス感染拡大防止の為、各公園単位で開催)、安全講習の実施等に取り組んだ。事故が発生した際には、安全衛生委員会において、原因検証と再発防止の検討を実施した。 安全な職場環境の実現と、スタッフの雇用環境の向上を進めるなかで、市民サービスの向上につなげることができた。	4/14～5/31 の期間、緊急事態宣言を受け、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策としてテレワーク、オンラインによる会議や講習会の参加などを行い、管理事務所内の人員の削減や3密回避を図った。	適切に実施されています。引き続き、スタッフの安全教育や、雇用環境の向上に努めてください。

		A	B	C	D
(3)施設・設備等の維持管理業務	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・維持管理業務の実施時には、施設の利用の支障にならないよう配慮するとともに、利用者に対し十分に案内するよう努めた。</li> <li>・さけ科学館における拾得物の取扱いは、遺失物法に基づき適正に行った。</li> <li>・真駒内公園駐車場と本館の玄関前にさけ科学館の電話番号を表示し、緊急時に利用者が通報しやすい環境を整えた。</li> <li>・緊急時のスタッフ間の連絡手段として、携帯電話による迅速な連絡が可能な体制を取った。</li> <li>・管理業務の実施に際して、当協会の過失等により札幌市または第三者等に損害を与えた場合に備え、仕様に適合した損害賠償責任保険に加入した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、施設内の触れる場所への消毒や入口に消毒液の設置、人が集まる状況の際の換気、マスク着用・3密回避などの励行・注意喚起の掲示、館内放送による注意喚起を実施した。</li> </ul>	<p>敷地内の作業の際は、声かけや周囲に気を配り、作業車両使用時には二人一組で対応するなど、利用者への安全配慮を最優先として作業を実施した。</p> <p>除雪機や草刈り機等の使用については、シーズン前に安全教育を実施し、報道等で事故があった際は、その都度注意喚起した。拾得物の取扱いは、遺失物法、当協会の規定、及び南警察署の指示に基づき、適正に対応した。</p> <p>今後もお客様が安心して施設を利用できるように努める。</p>			適切に実施されています。今後も、利用者の安全確保に配慮してください。

▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)

- ・定期清掃、機械警備、電気設備点検、消防設備点検、塵芥処理、産業廃棄物処理、受水槽清掃、駐車場・園路の除雪については、第三者への委託により適切に実施し、仕様書の水準に達した。なお、一部日常清掃はスタッフで行い、経費削減に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、巡回時には事前に放送をかけ、換気・アルコール消毒を行い、お客様が安心して見学できるように努めた。また、本館玄関・トイレ・さかな館入口付近に、手の消毒を促す、人感センサー付アナウンス機器を設置した。
- ・井戸ポンプ点検整備を、8/8～16で実施し、飼育魚に影響を与えることなく、問題なく終了した。

重要な設備等については、札幌市と適切に情報共有した上で、定期点検のほか日常的な自主点検・記録により、突発的なトラブルの予防に努めた。軽微な修繕等は直営または当協会他公園の協力で対応し、経費削減につなげた。今後も設備の知識を深めて経費削減、応急処置ができるように努める。

井戸ポンプ点検整備の際は、担当業者と打合せを密にし、飼育用水断水の際は、断水時間を短くするよう注意をした。また、整備期間中は給水量が半減するため、1時間おきに給水量をチェックし、各水槽への給水も目視にて確認した。

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、巡回時は、お客様が安心して見学できるよう、換気・アルコール消毒を徹底して行った。

新型コロナウイルス感染症対策について、利用者が少しでも安心して見学できるようにとの配慮がなされています。修繕等の施設維持管理についても適切に実施されていることを評価します。

▽ 防災

- ・利用者の安全・安心を最優先し、危機管理対策・対応については「予防・未然防止対策」、「初動処置・対応」、「再発防止・対応改善対策」の3段階に区分し、各段階において対策を行った。
- ・年度の防災計画を策定し、4月に防災訓練を実施した。

火災・地震・強風への対応訓練を4月に実施した。災害の際に起こりうる事態と対応についてはスタッフ全員で話し合い、情報を共有した。

台風等による強風で落ち枝・倒木等の被害について、隣接する河川敷地でも発生する可能性があるため、管理範囲外ではあるが安全確保が保てる体制をとるようにした。

適切に実施されています。今後も、防災に備えた体制の確保に努めてください。

		A	B	C	D
(4)事業の計画・実施業務	<p>▽ さけ科学館における普及啓発事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サーモンスクール放流式--人(計画60人)</li> <li>・サケ稚魚体験放流-回---人(計画3,000人)</li> <li>・知る・みる・カニさん・ザリガニさん53人(計画60人)</li> </ul> <p>※展示のみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わくわく体験(エサやり・サケタッチ) 17回1,072人(計画800人)</li> </ul> <p>※中止6回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さかなウォッキング 3回64人(計画60人)</li> <li>・公開さかな調査 18人(計画50人)</li> <li>・サケとふれあうミニイベント 1,412人(計画1,000人)</li> <li>・サケの採卵実習・受精体験 4回171人(計画100人)</li> <li>・サーモンウォッキング・観察会 4回312人(計画250人)</li> <li>・札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラム 200人(計画100人)</li> </ul> <p>計3,302人(計画5,480人)</p> <p>※4/14～5/31は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館となり、その期間中のイベントもすべて中止となる。</p> <p>※一部実習は事前申込み制とし、応募者多数の場合は抽選で参加者を決定した。</p> <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「サケフェスタ2020」は中止とし、代替イベントとして「サケとふれあうミニイベント」を実施する。</p> <p>※来館者対象の「サケの人工受精体験」の際は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため整理券を配布し、全員が参加できるように対応した。</p>	R2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、大型イベントの「サケ稚魚体験放流」を含めた4月～5月末のイベントが全て中止となつたが、状況を丁寧に説明し、次回気持ちよく参加して頂けるように対応することができた。サケフェスタ2020は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とし、代替イベントとして規模を縮小し、「サケとふれあうミニイベント」を行い、お客様が安心して参加できるように新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底して行うことができた。1月に開催した札幌ワイルドサーモンプロジェクト市民フォーラムは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Zoomを使用したオンラインで行い、多くの市民に豊平川に遡上するサケの現状と野生サケの重要性を知つてもらうことができた。	新型コロナウイルス感染症対策のため、普及啓発事業が計画通りに実施できなかつたことについてはやむを得ないと考えます。また、参加方法や実施内容を変更したり、オンライン会議に対応するなど、感染対策に考慮しつつ柔軟に対応していることを評価します。来年度以降も、感染状況を見極めながら普及啓発に努めていただくことを期待します。		
	<p>▽ 生物に関する相談業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の飼育・生態等に関する質問・問合せ等は計115件あり、それぞれ適切に回答したほか、必要に応じて資料の送付・書籍・専門家の紹介等を行つた。</li> </ul>	サケのほか、水辺の生き物全般にわたつて様々な質問を受け、適切な回答を心掛けた。今後も関連資料や書籍等を収集し、また、水辺の生物を中心につき研修会や会議にも可能な限り出席して、分かりやすく回答ができるように努める。	昨年度よりもかなり多くの質問件数があり、さけ科学館における相談業務の重要さを実感しています。今後も、業務を通じて得た知見を活かし、利用者へ還元していただくことを期待します。		

- ▽ さけ科学館の業務に関する情報収集及び提供業務
- ・水産資源研究所等の研究機関が発行する文献や、ホームページで公表される情報を収集してスタッフで供覧し、展示・解説案内に反映させた。
  - ・応用生態工学会に、「大都市を流れる豊平川における河川地形の経年変化とサケ産卵環境への影響について」の投稿論文が受理され、ホームページで公開した。
  - ・業務上有益な研修会・会議等には可能な限り出席するように努めた。
  - ・生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワーク会議(5/1)
  - ※メール会議において実施
  - ・札幌ワイルドサーモンプロジェクト勉強会(5/12)
  - ・北海道サケネットワークサケ会議(5/16)
  - ※オンラインにおいて実施
  - ・CISEネットワーク運営委員会(6/3)
  - ※オンラインにおいて実施
  - ・豊平川河畔林勉強会(9/10)
  - ・豊平川利活用協議会(10/17)
  - ・サケマス管理の今後に関する勉強会(11/10)
  - ※オンラインにおいて実施
  - ・応用生態工学会、第2回勉強会(12/10)
  - ※オンラインにおいて実施
  - ・環境学習施設勉強会(12/17)
  - ※オンラインにおいて実施
  - ・サクシュコトニ川意見交換会(1/15)

文献等の情報共有により、利用者への適切な案内・回答につなげることができた。Zoom等を使用したオンラインにおいて、業務上有益な会議・研修会等に積極的に参加し、得られた最新の研究成果等は、利用者への解説に役立つことができた。

積極的に、情報収集や会議等の出席を行い、その成果を利用者への解説等に活かしていることを評価します。

(5)施設利用に関する業務

▽ 利用件数等

令和2年度

入館者数	32,906 人	
解説案内・学習対応	53 件	2, 489 人
外部依頼の実習等対応	32 件	1, 588 人
ボランティア活動(のべ)	101 日	148 人
図書貸出	30 件	65 冊

入館者数は、4月～5月の新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館、不要不急の外出の自粛等の影響により、入館者数は減少した。来て頂いたお客様に満足していただけるよう、スタッフ全員で丁寧な説明・解説を心掛けた。イベント等は、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じて、安心して参加できるように実施した。

A B C D  
休館期間が長く、入館者数が大幅に減少したことについてはやむを得ないものと考えます。今後も、感染症対策を徹底しつつ、できる限り新規・リピーターの利用者増加につながることを意識した情報発信、イベント実施に努めてください。

	<p>▽ 利用促進の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サケとふれあうミニイベントの際は、市広報以外にも、ポスターを作成・印刷し、近隣の幼稚園・市内小学校等に配布した。</li> <li>・マスコミ取材の際には、新型コロナウイルス感染拡大防止も考慮してイベントの告知を入れてもらうよう依頼するなど、利用促進に繋がるように努めた。</li> <li>・講師や実習、展示などの依頼については、新型コロナウイルス感染対策を行い、可能な限り受け入れ、さけ科学館のPRに努めた。</li> </ul>	<p>市広報・マスコミ等を利用して、新型コロナウイルス感染症拡大防止も考慮し、さけ科学館のPRに努めた。また、外部依頼の実習・展示協力等は、PRにも繋がるため、可能な限り受け入れるようにした。引き続き利用促進に取り組んでいく。</p>	<p>感染症対策も考えたうえで、適切なPRが行われていたと評価します。</p>
(6)付随業務	<p>▽ 広報業務</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イベント情報は、さけ科学館ホームページや館内掲示のほか、新型コロナウイルス感染拡大防止も考慮して、市広報・マスコミやその他の関係団体などを通じて提供し、PRに努めた。</li> <li>・公園ホームページについてのウェブアクセシビリティ研修を担当職員対象に実施した。また取組確認・評価表を、令和3年3月31日に公開した。</li> <li>・サケとふれあうミニイベントの際は、新型コロナウイルス感染拡大防止も考慮して事前にポスターを作成し、配布・宣伝した。</li> <li>・ホームページは隨時手直しをして利用し易さを改善し、サケ観察情報など最新情報の掲載に努めた。</li> <li>・令和2年度のホームページに41,512件のアクセスがあった。</li> </ul> <p>▽ 引継ぎ業務</p> <p>前回から継続指定を受けており、引継ぎ業務はない。</p>	<p>イベント情報については、マスコミの別件取材の際にも、新型コロナウイルス感染拡大防止も考慮して、掲載依頼するなど広報を実施し、利用者増につなげた。館外でのイベント等では、さけ科学館のPR活動を行った。ホームページでは、最新の情報発信に努め、利用者が情報を得る手段としての利用増に繋げるよう努力した。</p>	<p>A B C D</p> <p>ホームページのアクセス数が減少していることについては、感染症対策によるイベント中止などの影響がありやむを得ないと考えます。一方で、SNSを活用し、感染症対策の呼びかけや最新情報の発信を積極的に行っていることについては評価に値します。SNSは、利用者にとって手軽に閲覧できるツールの一つとなっていることから、さらなる活用に期待します。</p>
2 自主事業その他			
	<p>▽ 自主事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・売店営業</li> <li>・自販機設置</li> <li>・受託業務(調査業務・技術指導の業務)4件</li> <li>・自主事業申請イベント開催数 5件(その他のイベント等は本来業務)</li> <li>・外部に対する講師派遣、展示協力、調査研究協力等対応 90件</li> </ul> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定期清掃などの第三者委託業務は、市内企業に発注した。</li> <li>・売店商品の一部は、「元気ショップ いこ～る」から仕入れた商品を販売した。</li> </ul>	<p>調査等の受託業務は、本来業務に支障のない範囲で行い、得られた知見は教育・解説活動等に役立った。</p> <p>売店では、就労支援施設等で製作されたサケにちなんだ小物などを販売し、好評を得られた。</p>	<p>A B C D</p> <p>コロナ禍のためイベント開催数や協力対応件数が減少したことはやむを得ないと考えます。今後も、感染状況を考慮しつつ、さけ科学館の魅力や知識を生かせるような事業展開を期待します。</p> <p>市内企業の優先活用や、福祉施策への配慮がなされていることを評価します。</p>

### 3 利用者の満足度

#### ▽ 利用者アンケートの結果

		A	B	C	D
実施方法	館内にアンケートボックスを設置した。また、イベントでアンケートを実施した。				
結果概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合満足度: 89.5% (回答数19件、市要求水準75%)</li> <li>・接遇に対する満足度: 75.0% (回答数16件、市要求水準80%)</li> <li>・イベントに対する満足度: 97.7% (回答数1,082件、市要求水準85%)</li> </ul> <p>※新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、十分なアンケートを収集することができなかつたため、回答数が少なく、判定できず(過去3年の平均回収件数350件)</p>	コロナ禍のなか、閉館による入館者数の減少や稚魚放流やサケフェスタなど多くのアンケートが集まる時期にイベントが中止されたためサンプル数が減少しているが適切な新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い対面によるアンケートを実施し、総合評価等についての満足度は89.5%だった。	コロナ禍のためサンプル数が大幅に減少してしまったことはやむを得ないと考えます。イベントに対する満足度については、非常に高く、イベント内容の工夫や対応するスタッフの努力が感じられる結果となりました。		
利用者からの意見・要望との対応	<p><b>【意見】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さい頃から何度も来て、楽しませて頂いております。今日「トクサイ」について初めて知りました。</li> <li>・たいへんすばらしい展示でした！来年もまた来ます。コロナにまけず開館して下さってありがとうございます！</li> <li>・階段や地下の狭い通路などバリアフリーに対応していない箇所が見られる。</li> <li>・(スタッフの接遇について)挨拶してくれた！</li> <li>・こんなに近くにあるのに1度も入ったことがありませんでした。子どもと楽しく拝見しました。メダカを育てるのが大変だったので、どのように工夫されてるのかなーと思いました。</li> </ul> <p><b>【対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も来お客様への対応は丁寧な言葉遣い、分かりやすい説明に気をつけ、気持ちよく見学ができ、満足できるように心掛ける。</li> </ul>	今後についても新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行い、お客様から貴重な意見の聴取の機会として対面によるアンケートを実施し満足度の向上に繋げていきたい。	イベント満足度は1,000件以上の回答に対して、非常に高い満足度となった。今後も新しい企画の検討のほか、現行イベントの充実も図り、来館者・イベント参加者を飽きさせないように努力する。	引き続き、様々な利用者層に満足いただけるよう、日頃の対応の見直しや、充実した企画運営に努めてください。	

#### 4 収支状況

△ 収支				(千円)	A	B	C	D
項目	計画	決算	差					
収入	43,663	44,919	1,256					
指定管理業務収入	42,213	42,254	41					
指定管理費	42,213	42,213	0					
利用料金	0	0	0					
その他	0	41	41					
自主事業収入	1,450	2,665	1,215					
支出	43,401	46,886	3,485					
指定管理業務支出	42,850	45,436	2,586					
自主事業支出	551	1,450	899					
収入-支出	262	▲ 1,967	▲ 2,229					
利益還元	0	0	0					
法人税等	262	1	▲ 261					
純利益	0	▲ 1,968	▲ 1,968					

△ 説明

- ▼ 自主事業収入は、魚類調査や技術指導等の業務受託により、計画より1,215千円の増となった。
- ▼ その他収入は、事業寄付金による。
- ▼ 指定管理業務支出は、新型コロナウイルス感染症対策のための物品購入費用や、除雪経費の増加などで、計画より2,586千円の増となった。
- ▼ 自主事業支出は、収入の増加に伴う売店商品の仕入費などで、計画より899千円の増となった。
- ▼ 自主事業のうち収益性のある事業から生じた収入については、公益法人の特質上、利益の約半分を公益目的事業に繰り入れている。

受託業務は、札幌市内の河川におけるサケ等の生態調査をはじめ、生物環境改善・普及啓発業務など、さけ科学館職員の経験・知識を活用して対応できる業務を受けた。今後も本来業務に支障をきたさない範囲で積極的に受託し、差益を施設運営費に充当することと、業務で得られた知見を利用者に還元することにより、教育普及に役立てていく。エサやりは、小さい子どもでも簡単にできる体験のため、無料体験のない日でもエサやりができるよう販売しており、利用者に大変好評であった。今後も販売を継続し、収支と利用者サービスの向上に努めていく。

感染症対策や、除雪経費の増加による支出の増はやむを得ないと判断しますが、昨年度に引き続き、収支が赤字となっています。引き続き適切な維持管理を行いながら、収支改善に努めてください。なお、自主事業収入が計画より大幅に増加したことについて、技術指導等を積極的に行なったことによるものであり、評価に値すると考えます。引き続き、自主事業の充実に努めていただけたことを期待します。

#### <確認項目> ※評価項目ではありません。

△ 安定経営能力の維持		適	不適
▼当協会の財務状況等は、令和2年度、赤字決算になる見込みはなく、運営安定化積立資産の留保金もあるため、安定経営能力に問題はない。			
△ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応		適	不適
▼ 各条例の規定に則り、全て適切に対応した。			
▼ 情報公開請求はなかった。			
▼ 当施設の管理等に係るオンブズマンの実地調査はなかった。			
▼ 施設使用者に対する告知として、暴力団活動や暴力団の資金源となる活動に施設を使用できない旨の文書を管理事務所に掲示した。			
▼ 物品購入や業務の委託等に際して、暴力団員や暴力団関係事業者を相手方としないよう徹底した。			

### III 総合評価

#### 【指定管理者の自己評価】

総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>＜利用状況＞</p> <p>開館中は、お客様が安心して見学できるように、巡回時には換気やアルコール消毒を定期的に実施し併せて館内放送を行った。巡回時の消毒の際は、手が触れる可能性がある場所を徹底して消毒を行い、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた。臨時休館中は、お客様から開館状況についての問い合わせが数件あったが、状況を丁寧に説明し、再度開館した際に気持ちよくお越しいただけるように、心掛け対応することができた。団体予約受付の際は、コロナウイルスに伴う対応を丁寧に説明し、安心して気持ちよく見学ができるように心掛けた。9月以降は、サケ・サクラマスの遡上状況に関する問い合わせも多く、問い合わせの際は、場所が川と言うこともあり分かりにくいため、分かりやすく丁寧に説明するようにスタッフ全員に周知した。インターーンシップ実習及び博物館実習の際は、サケの生態等について指導・講義を行い、館の役割や業務について、理解してもらえる事ができた。1月は真冬日が続き、新型コロナウイルス対策に伴う換気のため館内も著しく寒くなつたが、来館者の密度を見ながら、適期に窓を開けて換気をするようにし、お客様ができる限り快適に見学できるように努めた。週末・祝日に、館内のお客様が増えた際は、開放可能な窓は全て開け、換気の徹底をし、消毒作業をこまめに行い、新型コロナウイルス感染防止に努めた。</p>	<p>＜利用について＞</p> <p>今後も、お客様が気持ちよく来館して頂けるように親切な説明をするように心掛け、また新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、安心して施設を利用して頂けるように努力する。</p> <p>サケ遡上状況をできる限り把握することに努め、最新の情報を市民に提供できるように努力する。また、インターーン実習や博物館実習は可能な限り受け入れ、次世代を担う人材を育てて行きたいと考える。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止対策として真冬日でも換気をするため館内が著しく寒くなつてしまうが、お客様の混み具合を見ながら窓を開けて換気するようにし、できる限り快適に安心して見学できるように努めていく。</p>
<p>＜教育普及＞</p> <p>4月・5月のイベントについて、開催の可否について数件の問い合わせがあったが、早い段階での中止の告知、丁寧な説明による電話対応の結果、中止に伴う苦情等は一切なかった。6月に開催したイベント「知る見る力ニさんザリガニさん」では、普段は解説を聞いてからさわって頂くイベントだったが、新型コロナウイルス感染拡大防止ため展示水槽のみとし、小さい水槽に入れて間近かで見て頂けるように工夫し、お客様が目につきやすい場所に展示した。「サケたちのお話とエサやり体験」は、6/13.20.27の3日間で計102名の参加があった。新型コロナウイルス感染防止対策として、密集を防ぐためにサケの解説は取りやめ、エサは密接を防ぐためカプセルに入った容器をセルフサービスで取って頂き、一方通行として密集にならないように人数を制限して実施した。「さかなウォッチング」の際は、密にならないように気をつけて実施した。また、マスク着用で実施したが、気温が高く息苦しい時は、熱中症のことも考慮し、無理をせず外して、人との距離を取って実習に参加して頂くようにした。「サケとふれあうミニイベント」の際は、新型コロナウイルス感染防止対策を施して、3密にならないよう気をつけて実施した。サケの人工受精体験の際は、なるべく多くの方が参加できるように考慮し、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として事前に整理券を配布した結果、参加を希望したお客様全員に体験して頂くことができた。今回初めて新型コロナ感染症対策の一環としてオンラインにより実施した「SWSP市民フォーラム2021 サケに好かれる街、札幌」では、多くの方が参加していただき、札幌のサケについて普及啓発をすることができた。</p>	<p>＜教育普及について＞</p> <p>今後も、新型コロナウイルス感染対策を行い、お客様が安心して参加できるイベントを実施していく。</p> <p>サケたちのエサやり体験は、親子連れの小さい子供も気軽に参加できる体験のため、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して行い、安心して参加できるように努める。</p> <p>さかなウォッチング開催時は、夏に実施することもあり、感染防止対策でマスク着用の際に息苦しくなることもあるため、参加者の状況をしっかりと把握し、安全に事故のないように実施していく。</p> <p>サケ観察会では市内他河川のサケ遡上情報などの話を交えて、河川環境にも目を向けてもらうきっかけとなるように努めていく。SWSP市民フォーラムは、豊平川のサケについて知らない方々にも知って頂ける良い機会でもあるため、今後も内容を充実させ、関係機関と協力して実施していく。</p>

### <施設管理>

新型コロナウイルス感染症対策として開館中は、お客様が安心して見学できるように、巡回時には換気やお客様の手が触れる可能性がある場所を徹底的にアルコール消毒を定期的に実施し併せて館内放送を行った。イベントの自粛・中止が予想されてはいたが、サケ稚魚体験放流で使用する、放流水路につながる園路の整備を施設の閉鎖期間に実施した。整備には日数がかかるため、開催になった場合すぐには対応できないことが考えられたため、園路整備を実施した。ニセアカシアの剪定は、体験放流に合わせて毎年実施しており、未実施の場合著しく成長するため、次年度のことも考慮して剪定することができた。眼鏡型オブジェの基礎部分の撤去は臨時休館中にを行い、館を利用するお客様はいなかったが、公園利用者に迷惑がかからないように気をつけて実施することができた。受水槽清掃の際は、トイレ等の断水が生じるため休館日に実施するように調整し、お客様に迷惑がかからないように実施した。新型コロナウイルス感染症対策として定期的に換気を行うことから排煙窓等について巡回時に点検を行っていた結果、本館正面排煙窓の動作異常を発見し素早く修繕を実施することができた。井戸ポンプ点検整備の際は、担当業者と打合せを定期的に行い、特に飼育用水断水時は、断水時間を短くするように注意をした。また、整備期間中は給水量が半減するため、1時間おきに給水量をチェックし、各水槽への給水も目視にて確認し、問題なく飼育管理することができた。トイレの配管が詰まった際は、今後同様のトラブルが発生した際に備え、スタッフ全員に対処方法を説明し、慌てず落ち着いて対応するように指導した。観察池木製施設撤去工事の際は、お客様に危険がないよう安全確保を行い、スタッフ全員で気をつけてみるように指示をした。3月に入り雪解けが進み、敷地内の不具合箇所がないかスタッフ全員で注意して巡回するよう周知し、美観を保つように対応した。

### <飼育管理>

サケ稚魚は高密度で飼育するため、魚病が発生しないよう水量・残餌等に気をつけ、健全に飼育することができた。全てのサケ稚魚に耳石温度標識を施し、標識作業の際はノイズが出ないよう振動に気をつけ、問題なく施標することができた。施標したサケ稚魚のサンプルを、北海道区水産研究所で見て頂いた結果、良好に施標されていることが確認できた。また、サケ稚魚放流後は、池の切換作業を実施し、速やかにサケ科魚類の展示に切り替えた。サケ科魚類の間引きの際は、ランダムに行うように心掛け、大小が偏らないように注意をして行うことを心掛けた。理解はしているが、改めてスタッフにも偏りが生じると雌雄の割合が偏ることがあることを指導した。適時に掃除することにより、飼育環境が悪化しないように管理することができた。野外調査やさかなウォッチングの際に展示魚の更新及び補充も兼ね、複数の種類を収容し、効率よく展示を実施することができた。サケ等の採卵が今後本格的に始まるため、サクラマスの採卵の前に、スタッフ全員で手順を確認し、受精卵の取り扱い等に間違いないよう指導した。耳石温度標識実施の際は、ノイズが現れないように振動に気をつけ、丁寧に実施するようスタッフ全員に周知をした。受精卵管理の際は、適期に死卵を除去し、健康な受精卵の成育に努める事ができた。放流の際は、サケ稚魚に負担がかからないように丁寧に運搬して放流した。当日放流後に空いた地下観察室サケ稚魚スペースには、円形水槽で飼育していたサケ稚魚を移動し、サケ稚魚展示が途切れないようにした。

### <施設管理について>

今後も、お客様が気持ちよく安心して来館して頂けるように新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、施設を利用して頂けるように心掛けてを実施していく。

今後も、設備の状況に目を配り、臨機応変に施設管理を実施し、設備が良好な状態で維持されるように気をつけ、お客様の迷惑にならないように、気持ちよく見学できるように気をつけて施設管理を行っていく。

飼育管理に影響を及ぼす飼育用水に関わる工事の際は、業者との連絡を密にし、トラブルが発生しないように気をつけて施設管理を実施していく。

お客様に影響を及ぼす修繕は休館日に実施するようにし、安心して安全に見学できるように施設管理に努める。

### <飼育管理について>

今後もサケ稚魚飼育管理の際は健全な飼育管理に努め、魚病を出さないようにスタッフ全員で様子を観察し、お客様が楽しんでいただけるような飼育展示を実施していく。また展示生物が良好な環境で飼育できるよう、適宜水槽掃除及び飼育密度の調整を行い、健全な飼育に努めた。サケ科以外の淡水魚は、多くの人が川に入るさかなウォッチングの際に普段採集できない種類が多いため、参加者の協力も得ながら、展示魚の充実を図っていきたいと考える。採卵の際は、サケ・サケ科魚類の採卵が適時に対応するように注意をし、健全な受精卵を収容するように努めしていく。

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>新型コロナウイルス感染症の影響が大きい年でしたが、感染対策が徹底され、イベント等も工夫して行われていました。業務を通して蓄積された専門知識も活用し、さけ科学館の設置目的を十分達成していたものと評価します。</p> <p>今後も感染症対策を徹底しながら、多くの利用者に来館いただけるよう、より効果的な情報発信や、新規事業の企画等について検討してください。</p>	<p>引き続き、各施設の点検・修繕を実施しながら適切な維持管理を行うとともに、利用者の安全確保、事故防止についての対策を徹底してください。</p>